

上海気まぐれ日記「音楽ホール」

08.6.20

上井 真

今回は、上海の音楽ホール事情を書いてみます。

上海には、上海音楽庁、上海大劇場、東方芸術中心という3つの音楽ホールがあります。

東方芸術中心 <http://www.shoac.com.cn>

この中で一番新しいのが、東方芸術中心で、黄浦江の西側、浦東の開発地区にあります。フランス・シャルルドゴール空港の設計者であるポール・アンドリュウ氏の設計により、2005年に完成したばかりのホールで、ご覧のように、斬新なデザインです。このホールは、歌劇庁（オペラハウス）、演奏庁（小ホール）、音楽ホール（大ホール）と3つの機能を持っており、オルゴール博物館やフランス料理のPARI's Shanghai も中に入っています。最近では、フィラデルフィア管弦楽団、ヨーヨーマ、ムターなどがここで演奏会を開きました。

まず、演奏庁（小ホール）からお話します。ここには今所属している shanghai strings が、青木バイオリン教室の賛助出演を行った時に、弾いてきました。団員に青木先生がいますので、彼をコンマスとして演奏を行ったという訳です。通常は、上海音楽学院の一教室で、発表会を行うそうですが、今回は、一流のホールを体験してみようというテーマで借りてみたとのこと。

で、この小ホールですが、無理にゴリゴリ引かなくてよい、非常に響きの豊かなホールでした。ただ、円形舞台の前半分のほうが、音の通りが良いようで、なるべく前に出て弾いたほうがよさそうでした。

演奏庁（小ホール）



次に音楽ホール（大ホール）ですが、ケルンのオーケストラ The Philharmonic Orchestra of Cologne のニューイヤーコンサートを聴いてきました。ワインヤードのホールで、響きも座り心地もよかったです。プログラムは、ブラ2、火の鳥、ウィリアムテル序曲、南国のバラで、不思議な曲順でした。上海の聴衆は、まだクラシック音楽の視聴には慣れていないみたいで、上海歴の長い人からは、演奏会

に行っても、京劇などのノリでぼりぼりお菓子を食べながら見るとか、ずっとしゃべり続けている人が多いとか聞いていました。特に客の入りの悪い演奏会で、無料券を配ったような場合には、こうした傾向が顕著のようです。そうした対策のために、始めに聴衆の集中力があるうちに重い曲を置いて、後半にはポピュラーな曲で注意をそらさない作戦だったのか？なんて勘ぐってしまいました。

しかし、この日は、そうしたうわさとは別に、非常にお行儀のいい演奏会でした。確かに、東方芸術中心は、ロビーに入る時からチケットの提示を求められ、変な一見さんお断りの態勢になっており、ホール内でも、ドアガードのお姉さんたちが、演奏中に写真は撮ってはだめとか、いろいろうるさいことをいっており、一種の中国式マナー教育かと感じました。最近は「のだめカンタービレ」が上海でひそかなブームになったこともあり、クラシックがライフスタイルのファッションとして認識され始めたのか、少しずつ聴衆のほうもレベルアップしてきたかも知れません。

演奏のほうは、ブラ2が安定した響きのある演奏でよかったです。南国のバラは、ちょっと軍楽隊チックでいただけなかった……。でも、このオーケストラ(德国科隆愛楽楽団 ; The Philharmonic Orchestra of Cologne) はネットで調べたんですが、英語名があっていないのか該当がないんですね。ケルンのオケとはわかるんですが。いったいどこのオケだったんでしょう？

音楽ホール(大ホール)



上海音楽庁 <http://www.shanghaiconcerthall.org>

次に上海音楽庁についてご紹介します。夜に行ったので写真は見づらいのですが、ヨーロッパ古典様式の素晴らしい建物で、1930年に建てられました。はじめは映画館として使用されていたようで、1959年から演奏会場として使用されるようになったそうです。この建物は、上海の中心地にある人民広場の南側にありますが、人民広場の南側を通る延安東路に面していたため、都市開発に伴い延安高架道路や住宅区が建設されたことで、騒音に悩まされていました。また老朽化も進んでおり、大規模な補修の必要性も唱えられていたため、2004年には、東南方向へ66メートルの水平移動を敢行し、リニューアルされたそうです。



この建物は、優秀近代建築に指定されており、外観だけでなく建物内部も、写真のとおり、素晴らしい造りになっています。



ここには、1月26日に非常にレアな企画、「我为中提狂-VIVA VIOLA (われわれビオラ狂?)」というビオラのためのアンサンブル演奏会を見に行ってきました。この企画は、上海で活動する劉念と盛利という二人のプロピオリストを中心に、上海音楽学院のビオラ科、沈西蒂教授とその生徒たちの演奏会で、20世紀音楽のマニアックなアンサンブルをはじめ多彩なプログラムでした。

中国の弦楽器弾きは、技術重視で、アンサンブルがいま一つ、なんて話も耳にしない訳ではないのですが、技術、アンサンブル、音楽性いずれの点からも素晴らしい演奏会でした。特にビオラはアンサンブル

ル能力が、大切だと思うのですが、今回はどのアンサンブルにおいても、堪能させてもらいました。上海のピオラ弾き侮りがたし！ピオラだけでこんなに楽しませてもらえるなんて、大変なもんです。きっと編曲もしっかりしていたからなんだとおもいます。でも、彼らは卒業したら、どこで仕事を見つけるんだろう？

ところで、2番目に登場した王嘉曦は、この日、唯一の独奏を行いました。何と彼女は、11才の女の子でした。いやはやこれにもびっくり。

席なのですが、切符売場のお姉さんにお勧めの場所といたら、2階席をくれました。2階席は、舞台の音がそのままストレートに届く感じで、いい音響でした。2階席はお勧めみたいです。

どうしてもこの勇姿を見てもらいたくて撮りました



ご参考までに、今回のプログラムを載せておきます。どこまで中国語わかりますか？

< 曲目 >

中提琴合奏

江苏民歌-民歌主题幻想变奏曲 《茉莉花》 / (改编 石昱)

沙汉昆 (东蒙民歌主题)《牧歌》 / (改编:石昱) 演奏:中提琴乐团

中提琴独奏

蔡林格 《约翰公爵曲》--主题与变奏

演奏:王嘉曦(11才)

Zeylinger

中提琴二重奏

布里奇《悲歌》

演奏:蓝汉成,刘念

Frank Bridge

中提琴三重奏

罗辛斯基 《为三把中提琴而作》

演奏:蓝汉成,盛利,刘念

Rosinski

中提琴四重奏

鲍恩 《幻想曲》

演奏:刘念,吕翔,唐睿卿,蓝汉成

Bowen

中提琴合奏

约翰·施特劳斯 《帝皇圆舞曲》(改编版)

演奏：中提琴乐团

Johann Strauss

- 中场休息 -

中提琴合奏

阿尔贝尼兹/伽达尔 《探戈双档》/(改编 石昱)

演奏：中提琴乐团

Albeniz/Cardel

中提琴五重奏

帕格尼尼 《钟》/(改编 石昱)

演奏：茅异竹，钱骏平，魏震，陈力，俞海锋

Paganini

中提琴六重奏

理查·施特劳斯 歌剧《随想曲》序曲/(改编 石昱) 演奏：蓝汉成，魏震，盛利，巴桐，孙扬，张译文

Richard Strauss

中提琴七重奏

皮亚佐拉 《分解探戈》(为七把中提琴改编)

Piazzola

演奏：张姝影，付水森，邓一飞，马慧，刘宽，郭扬，袁楚雯

中提琴合奏

哈佛森/亨德尔 《帕萨卡利亚》/(改编 丁芷诺)

演奏：中提琴乐团

Halvorsen/Haendel

ちょっと脱線 天才くん

4月26日に旗包展(チャイナドレス)を見に上海美術館に行ってきました。後でお話しする上海大劇院の隣にあります。

驚いたのは、美術館のロビーで、アトラクションとして、バイオリンの天才少年がパガニーニを弾いていたことでした。うちの悠もすっかり見入っていました。いやはや、上海には天才がいっぱい？



上海大劇院 www.shgtheatre.com

人民広場の西側にあります。1998年のオープンで、大劇場、中劇場、小劇場の3つの劇場を持っています。ここでは、クラシック以外に演劇、ミュージカル、バレエと多彩な演目が催されます。

2008年はオープン10周年になるそうで、2007-2008にかけて、パリ管、イスラエルフィル、ニューヨークフィル、アムステルダムコンセルトヘボウ、Stペテルブルグフィルといった一流どころの演奏会が企画されています。2月にはマゼール率いるニューヨークフィルが、北朝鮮公演を行い話題になりましたが、この時、上海でも演奏会を行いました。残念ながら、家族を迎えに日本へ一時帰国したので、聴くことができませんでした。そういう訳で、この劇場にはまだ入ってみたことはありません。

1階には、上海では数少ないCDショップがあります。日本と比べれば、品数が充実しているとは言えませんが、とにかく安いです。上海では、CDに限らず一旦品切れになるといつ再入荷するかわからないので、気になるものがあれば、迷わず出会いがしらでゲットすることが肝心です。



以上